

部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

「太りすぎ」勝手に弁当食べられた

結婚式直前に転職

就職難が深刻化する中、首尾よく職を見つけた先輩たちも試練を受けている。怒鳴る、殴る、過酷なノルマを自腹で埋めるなど、あせんとする理不尽な問題が各地の職場で起きている。それは「社会の厳しさ」というより、「いじめ」と呼ぶのがふさわしい。

(加藤裕治)



電話で職場での悩みを聞くNPO法人「労働相談センター」の菅野事務局長―東京都葛飾区で

茶髪拒んだら「解雇」

職場いじめ 底なし

深夜にメール7通…眠れぬ

「こんなにあるんで(勤続三年の正社員)、社長が『お前は最低』」と。NPO法人「労働相談センター」(東京)の菅野事務局長が手にしたファイルは厚さ十センチほど。背表紙に「いじめ社員」(中小企業の正社員)、5月、6月」とある。

センターは解雇など労働問題に関する悩みを聞き、解決に向けた助言を提供している。平均で月五百件余の相談のうち、職場いじめについては約七十件余。その割合がじりじりと増えている。

菅野氏は「四十歳以下の若い層からの相談が多い。暴言や暴力。いつの時代の出來事なんだ、と思うものがある」と話す。その驚きの内容を教える。その驚きの内容を教える。その驚きの内容を教える。

「『太りすぎ』(給料を上げてほしかったらやせろ)と腹を殴られる。勝手に弁当を食べてしまう」

「茶髪に染めろと言われたら」

「深夜にメール7通…眠れぬ」

「拒んだら解雇と言われている」と語るのは、日付が「アパレル店員」(深夜でも会社からメールが届く。一晩で七通届の成果主義が背景にある。長期的な視野で社員を育てようと思わず、結果を性急に求める。そんな企業の間管理職が、上からのストレスを下にぶつけて「いじめ」を生み出す。

「郵便物の届け先の客に営業しろと言われている。達成できないと自腹でふるさと便を契約しな理由に裁判所にいじめの差し止めを請求▽弁護士名で経営陣に抗議文を出す▽会社の労組や合同労組を通じて抗議する。」

「これら手段を取れば、いじめは止まるが、会社に居づらくなる可能性もあって、つらいところだ。弁護士らの寄り添い、励ましが必要だ」

「ダメ人間」「気持ち悪い」言われ続け

ふるさと便ノルマ 自腹で負担